

32. どんな症状があらわれるのですか？

狭心症になると、胸が締め付けられるような感じが急に起こり、2分から3分ほどでまた元に戻ります。狭心痛と呼ばれるこのような狭心症で起こる発作的な胸の不快感は、人によってさまざまです。胸が締め付けられる、圧迫される感じとして現れることが多くみられます。息が詰まるような感じがする、押しつぶされるような感じ、しびれるような感じ、胸が焼けるような、あるいは熱くなる感じなどとして現れることもあります。短いときは1分ぐらい、長い時は15分ぐらい続くこともあります。狭心痛は心臓のある胸で感じる人と、左肩の辺りの痛み、歯が痛いと感じることや、背中や後頭部などに狭心痛を感じることもあります。狭心症の発作時に、息切れや呼吸困難を伴うことがよくあります。

狭心痛を起こし易いのは、坂道や階段を上る時です。狭心症をもっている人では、坂道や階段を上っている時に、急に胸が苦しくなり、立ち止まって少し休むとすぐ楽になります。このほか、時間に遅れないように急ぎ足で歩いている時、走っている時、冷たい風に向かって歩いている時などでも起こり易くなります。日常生活における家事、入浴や、喫煙、冷たい飲み物を飲んだ時、過食や過飲、セックスなどが誘因となることもあります。怒り、悲しみ、緊張、興奮、など精神的活動が高まった時に起こることもあります。坂道を上る時や、運動時に狭心症の発作がよく起こる場合は、労作性狭心症と言います。

これに対して、睡眠中など安静時に胸の苦痛が現れることがあります。安静時だけでなく、ごく軽い運動時にも痛みが起こることがあります。はっきりした誘因が無くても、不定期に狭心症の発作が起こる場合は安静狭心症と呼ばれます。安静狭心症では、労作性狭心症と比べると痛みも強く、持続時間も長めで、心筋梗塞が発症する危険性が高くなってきます。狭心症の診断には、狭心症の症状が参考になります。

心筋梗塞は突然の激しい胸痛で発病します。強い痛みで、死の恐怖感や不安感を伴うことが多くなります。顔面蒼白となり、冷汗が出てくることもあります。痛みは胸の中央部で感じる人が多いのですが、胸全体やみぞおちが痛いと感じることもあります。みぞおちが痛く、吐気や、嘔吐などを伴うこともあり、胃が悪いのではないかと思われることもあります。左肩、左腕、首や顎などに強い痛みを感じることもあり、肩関節痛ではないかと間違えることもあります。痛みの持続時間は30分から数時間と長くなります。一時軽快して良くなったと安心するが、また再発を繰り返すこともあります。心筋梗塞は運動中に発症することもあります。眠っている間や、安静時、軽い日常動作をしている時に起こることもあります。

心筋梗塞では心筋に酸素や栄養分を供給している動脈が詰まっているので、心臓が動かなくなって、突然死をすることもありますので、出来るだけ早く病院で治療を受ける必要があります。

糖尿病がある人では、心筋梗塞が起こっても胸の痛みを感じないことがあります。これを無痛性心筋虚血といいます。不整脈や息切れ、呼吸困難などで気づかれることもあります。痛みが無くて、心筋梗塞が起こったことに気が付かないと、さらに病気が進んで死の

危険性が増してきます。また高齢者で心筋梗塞が発症した時、胸の痛みはあまり無く、息苦しい、動悸がするなどの症状のこともあります。

狭心症や心筋梗塞は、心臓の壁にある動脈がかなり狭窄してから発病し、症状が表れてくる病気です。時には動脈がそれほど狭くなくても、動脈の壁に傷が出来て急に血栓が出来たり、動脈が痙攣を起こしたりして発病することもあります。心臓の大切な動脈が少し傷んできた段階では無症状です。心臓の動脈壁の傷が限度を越えて大きくなった段階で初めて症状が現れてきます。この「隠れ心臓病」の段階で予防することが、心臓を長持ちさせるために大切なことです。